研究区分	教員特別研究推進　教育推進

研　究 テーマ	教育用電子カルテを 2 年次実習の事前学習に取り入れた学習効果				
研究組織	代　表　者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	管原　清子
	研究分担者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	加藤　京里
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	山口　みのり
		所属・職名	浜松医科大学医学部・教授	氏名	永谷　幸子
	発　表　者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	管原　清子

講演題目

教育用電子カルテを 2 年次実習の事前学習に取り入れた学習効果

研究の目的、成果及び今後の展望

【目的】大学内において、看護における情報収集やアセスメントの過程を臨床の場に近い臨場感で学ぶことと、実際の臨地実習における電子カルテからの情報収集の方法を学ぶために、臨地実習の事前学習に教育用電子カルテを導入した。本研究の目的は、臨地実習の事前学習に教育用電子カルテを活用することで、実際の臨地実習での情報収集やアセスメントに役立つのか、また臨地実習での電子カルテ操作の不安を軽減することができるのかその学習効果を明らかにすることである。

【方法】看護学部 2 年生 120 人のうち、調査に協力の得られた学生 119 人を対象とした。基礎看護学実習Ⅱの臨地実習前の自己学習として、教育用電子カルテを用いた模擬受け持ち患者の看護過程の展開を行った。臨地実習で実際に電子カルテを使用した後（実習後）にアンケート調査を行った。アンケート調査は無記名で行い、協力は自由意思であることを説明した。アンケート調査と成績は一切関係ないことも説明した。

【結果】アンケートの結果、「電子カルテからの情報収集の方法が理解できたか」に対して 63 人（53%）が「できた」、41 人（35%）が「ややできた」と回答した。「できなかった」との回答はなかった。「事前に教育用電子カルテを操作したことは臨地実習に役立ったか」に対しては、61 人（51%）が「役立った」、37 人（31%）が「やや役立った」と回答した。「役立たなかった」との回答はなかった。「今後の臨地実習における電子カルテからの情報収集の不安の有無」に対しては、22 人（19%）が「ある」、58 人（49%）が「ややある」と回答した。「不安がない」と回答したのは 4 人（3%）であった。

【考察】アンケート結果から、事前学習として教育用電子カルテを活用することは、臨地実習に役立ったと感じ、電子カルテからの情報収集の方法を理解して臨地実習に臨むことにつながっていた。実際の臨地実習における電子カルテからの情報収集が円滑に進んだと考えられ、事前に教育用電子カルテを活用した学習をすることは、一定の学習効果をあげることができたと考える。一方で、68%の学生が「今後の臨地実習における電子カルテからの情報収集に不安がある」と回答していた。このように事前に学内で電子カルテの演習をしたとしても、多くの学生が電子カルテ操作に不安を抱えている現状が明らかとなった。この点については、学生が、自信がつくまで十分に教育用電子カルテで演習できなかったことと、実際の入院患者の情報は多岐にわたっており、短時間で整理することの困難感があったことが要因であると考えた。臨地実習での学習効果をあげるための効果的な事前学習について継続して検証したい。